
日本人学習者のためのロシア語学習語彙の研究

堤 正典 / 小林 潔

これまで言語研究センターの共同研究として、ロシア語の学習語彙を検討してきた。まずは、学習語彙リストの見直しであり、語彙リストに多数含まれる多義語の分析を課題としていた。今回は、それらの研究をさらに発展させる。

語彙リストの検討については、これまで、ロシア教育科学省認定ロシア語試験（ТРКИ）の学習語彙を基盤とし、ロシアへの留学生が必要とする語彙を中心としたものに対して、日本人がロシア語を使用するその他の様々な場面において用いられるものも加えることを考えてきた。しかし、現在のロシアでは、上記ТРКИの他にも、非ロシア語母語話者に対して種々のロシア語能力を要求することがあり、それを試す各種の試験が行われ、教材が提示されている。これまでの研究では、ТРКИ以外での試験・教材についての検討はまだ十分ではない。今回の研究では、この課題もさらに深めようとしている。また、ロシア語学習者向けのロシア文学作品等のリライトテキスト（学習者向けに語彙を制限してリライトしたテキスト）を原作と比べることにより、基本語彙の機能

を再検討することにも着手している。

多義語の分析については、日本語を母語とする学習者（日本人学習者）のためにロシア語学習語彙についての日本語との対照分析を行ってきた。多くの語は多義であり、その個々の意義（意味）はメタファーやメトニミーなどの関連をもち、ネットワークを形成すると考えられる。それぞれの語について、そのようなネットワークを明らかにすることが目的となる。これまでの研究で、いくつかの動詞・名詞・形容詞について分析を行ってきたが、さらに語数を増やす必要がある。また、多義ネットワーク分析の理論的探究も深める必要がある。個々の語の分析と並行して理論的研究も行っていく。中心的な語義で対応する日本語とロシア語の個々の語が、多義ネットワークとして、どのように異なり、どのように共通性をもっているかを明らかにしていきたい。このような異同は、ロシア語学習者にとって語彙学習における重要な注目点のひとつである。多義ネットワーク分析の語彙数を拡大することに取り組んでいる。

我々はこれまでの学習語彙の研究で、レアリア

についての学習の観点を重視してきた。語彙リストの検討では、ロシアという国が、ロシアやロシア語に関わる人材にどのようなロシア語に関するレアリアの知識を求めているかを明らかにするこ

とでもある。また、多義性の分析は、ロシア語母語話者の潜在的なレアリア知識の一端に注目することである。